



第8号

昭和二十八年五月一日発行（毎月一回一日発行）
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円（振替口座大阪三三九五六番）

奇譚クラブの二月、二月、三月号の誌上をにぎわした黒髪論議は、私の興味を引いたもの、一つであつた。

尤も、あの問題は主観の相違なのだから結論など得られるものではない、と云つてしまえばそれまでであるが、私はあの問題を各人の主観の押し売りの論争に終らせずにもつと掘り下げて「責め」と云う表現の持つ女の髪との関連性を各人の立場から説明して欲しかつたと考へてゐる。

女の髪のみを重点的に執着して、それだけが全部だと考へている人の立場は別としても、「責め場」の女の美しさを表現する一つの情緒を盛り上げる為には黒髪は重要な役目を果していると思ふはならない。その点はこの問題に興味を持つ人々には異論のないところであらうと思ふのであるが、此の点で問題になることは、時代物と現代物とに対する各人の好みの差である。

元来、各人の好みと云ふものは、年齢環境、職業等の他に「責め」に興味を持ち始めた最初の動機や幼時に受けた刺激等が潜在的な根源になつてゐるもので、私の知人の例を上げれば彼は「責め場」の女性の髪は洋髪の内巻ロールでないとピンと来ないと云うのであるが、これなどもつとも限局された好みの一つであらうと考へてゐる。彼の場合の好みに対する原因は至極はつきりしてゐるので、彼自身でもよくその好みの根源を自覚し

てゐるのである。それは、往時彼を裏切つた女が、常に内巻ロールを好み、彼の網膜にうつる彼女の幻想はいつの場合でも内巻ロールの髪型だつたのである。そこで裏切つた女に対する心理的な苦悩が責めに興味を覚える動機となり、その対象は内巻ロールの髪型の女でなければならぬと云ふことに限局されてしまつた訳であつた。

このように各人が意識するしないにかゝらず「好み」と云ふ底流の中には種々の原因があるものであるから、これ



年齢と好みの差

高 月 大 三

を解明してゆくことは「責め」そのものを研究する上に於て一つの意義があると私は考へてゐるのである。尤も各人の主観と云ふものは大切なものだから、お互に尊重しあわなければいけないのではあるけれども……

時代物と現代物との好みの差は大体その人々の年齢の差に正比例するようである。比較的若い配の人は殆んど云つていゝ程時代物の雰囲気好み、現代物の責めを好むのは青年層に多いことは、今更私が云々しなくても、これは現実であつ

いるし、時代物を描くことも決して嫌な訳ではないらしいのだが……
私は結論を急ぐのあまり、「では貴女の好みで描かれるとしたら、矢張り現代風俗ですか？」と愚問を發してしまつたのである。

「勿論、私だけの好みでしたら、今の髪型の方を取りますわ、時代物は私でなくともいくらでもいゝ人がお描きになりますから。……」これが玲子さんの答えであつた。大体、玲子さんの繪を描かれた動機から云へば、判る様な氣もするものであるが、私自身がどちらかと云へば時代物の責めの興味を持つてゐる方なので、このあたりで女史に新しい感覚の時代物をどしどし描いて貰いたいような氣もするのである。

だが、私が先にのべた「好み」に対する年齢の正比例と云ふことが、たとへて云へば伊藤晴雨氏と喜多玲子さんの年齢の差にも当てはまることなのであるから私の願ひも無理かも知れないと思ふのであつた。

読者の聲ABC

○殆んど同種雑誌がサド二辺倒ですが御誌が僅かながらマゾの理解者である点で感謝します。そして谷崎文学の香を持ち文学的ふくみのある表現であるのがせめてもマゾ党のなぐさめです。○徳川刑罰を近代風に写した海老責めや石抱き等の写真集を構成して下さい。○責めの挿繪をもつとのせてほしい。○KK通の増頁と回数増加、○責め写真の口繪の増頁と色刷、○時代小説をのせてほしい、○玲子女史の口繪を毎号を欠さないように○残酷なものは嫌いだ。等々

新時代の風俗雑誌

刊奇譚クラブ 定価 百円
月 奇譚クラブ (送料共)

(第七巻第五号) 五月号発売中

他に類例のない異色ある編集、古今東西に亘つた豊富な内容、前衛的風格を持つた唯一の風俗雑誌奇譚クラブは真摯な編集陣の努力と熱狂的な読者の支持によつて此処に齡七年を迎え、今や確固不動の揺がざる基盤を作り上げました。

直接購読予約会員の激増により、読者による読者のための雑誌という本来の目的に向つて邁進することが出来るようになりました。今後号を追うて益々充実発展、以て愛読者の御期待に副いたいと思ひます。

○奇譚クラブの(旧号バックナンバー)は左記の通り在庫してあります。

- 八月号 責めと男色特大号
- 九月号 倒錯の告白特集号
- 十月号 切支丹迫害史特集号
- 十一月号 宗教刑罰戦慄圖譜
- 十二月号 惑溺の愉快特集号

右は送共九十円にてお送りします。

七月号以前は全部売却となりました。

- 新年号 縛つた女を描く
- 二月号 責めの小説特集号
- 三月号 東西拷問くらべ
- 四月号 錯倒の告白特集

二十八年新年号以後の本誌は送共各百円にて急送します。各月号の詳細目次は最近号に發表してありますから御覧下さい

○直接予約購読者へは毎月厳重荷造の上書店発売前に発行所より読者へ第二種便にて直送致します。

○KK通信第四号まで品切第五号、第六号第七号は若干残部があります。

読者からの通信交々

塚 本 鉄 三

これは読者通信ではなく読者から編集部に対する通信なのですが、毎日束になつて放り込まれる全国各地からの便り、それは相当なものです。此れだけ熱心な愛読者を擁するという事は非常に意を強くさせて呉れます。その中から少しばかり皆様を紹介してみよう。言う迄もなくこれは発表されるという事を前提としての通信でありませんので内容の紹介に止めておきます。男性からの通信は勿論その大部分を占めるのですが案外女性からの大胆な通信も多く寧ろこちらが驚かされる位のものが相当数あります。二十前後のうら若き女性からの筆で綿々と悩みを訴えられた時は(縛つてほしいといったものが多いいですが)よしきた、と早速とび出す希望者が多いので困つてしまします。

その中で大阪の近郊からこういった変つた女性からの便りがありました。——恥しい事ですが私がマニアになりました。幼少の頃から私はお風呂やお不浄とか臭気の強い所にじつとくまつきたりして近辺の雰囲気になれてくることが好きでした、でもその頃は男性女性の区別なんかありませんでした。或る日母の友達の家へ遊びに行つた時丁度その家の誰かがメンスの時だつたと見えて汚れたパンティが便所の傍に置いてありましたの、私の同性下着蒐集マニアは此の時から始まつたと思ひます。勿論そのパンティは悪い事ですがこつそり貰つて帰りました。その時の私の気持、家へ帰り便所の中で死ぬ程匂いのとれる迄かきました。でも次第に匂いをかぐだけでは物足りなくなりましたの汚れた所を水でしめして吸いとつたり、その所の布をしがんで食べるようになりました。メンスの時のあの匂い、私大好きですよ、下着といつてもブラジャー・シュミーズ、腰巻などよりも直接……中略……落紙……中略……使用したもの、こんなものならお金出したつていゝわ、でも男性のなら御免だわ、きたなくて、一度男性の下着の匂いをかぎましたが全然興味がありません大嫌いです。今迄男の方から交際を申込んで来られましたが皆おことわりしていますのよ……これからまだ便箋数枚に亘つて綿々書き綴られていて、それに手札型の写真迄同封されてありました。こゝに抜き書きしたのには第二回の手紙ですが、第一回の便りには年齢二十三才と記されてありました。次に縛られたという希望者、男性がらは以前に申し上げたように沢山ありいさゝか応接に暇がない位でした。女性からの分、中々熱心な方も大分ありました。中で最も若い方は十八才の処女で新制中学を卒業後製菓工場に勤めていると

いう方で発表して貰つては困るという条件で長い手紙を寄こされました。その方の手紙を拝見していると、被虐的趣味と露出症的傾向とが一緒になつていようで工場に於ける同性間のいろ／＼の交渉が微細に描写されてあつて中々興味深いものでしたが、これはその方の許しがあつても公表され得る性質の内容ではありませんでした。十九才の処女で縛られたい、しかも普通の生やさしい方法ではない、というのですから、世のサド侯爵ならすとも大いに食指の動く所ですが、その便りの中で差支えない箇所を少しばかり抜き書きしてみよう。

伊呂波仁補遺抄

(三頁上段一九行) 射精(同十行) クライマックス(三頁上段三行) 快感が増(同四行) 射精(四頁中段一九行) 僕もとう／＼興奮してしまつて二人共天国へ上つてしまつたよ(八十頁上段八行十五行目より)「ちよつとく。早くく、今なら大丈夫でしょう」(同十一行目に挿入)私は完成された姿を保つていましたから一氣に土手を上りきる事は出来ました。(同十七行目に挿入)私はみる／＼うちに萎縮してしまふのです。「だめねえ、あなたという人は」(八二頁下段二行目の下へ)香り高い唇で上からびつたりと私の唇を蓋してしまひました(二〇九頁中段三行目と四行目の間)此の間約一千三百行削除しました。即ち良輔が窒息するに至る描写なのですが、これはいさゝか発表を差控へなければならぬ箇所ですので紳一の愛液によるとだけ記してあとは御想像願ひます。(一

——私はそんなきつ／＼縛られた自分の身体を他の方々に見せたくて仕方ありません。それでお友達とお休みの日にハイキングに行つて草むらの中へ入つて……中略……でも、それも許されませんので私の縛られた姿態を写真にとつて頂きたいのです。そしてその写真をお友の方々に広く見て頂きたいと思ひます。そんな事を思うだけでも私は……下略……

「開花の契機」に就いて

(一) 貴女の仰有る様に女の切腹は自殺の手段としては徒らに苦痛のみ激しく余り賢明ではないと私も貴女と同感です。けれど私の集めた文獻、蔵書等では全然なかつた訳でもありません。この理由は研究して見ればきつと面白いものだと思います。

(二) 第三章末に於て貴女は「このまゝでは一生結婚する事は出来ない女としての幸福云々」と仰有いました。私は自分の経験から決してそんな事はないと確信して申上ります。又此の性質だけは矯正しなければいとも仰有つていますが、それは一寸出来難いのではないのでしょうか？、私は又その必要もないと思つています。——読者——

友友通信

「淫火」について

読者通信に於ても淫火に対する期待と声援は大変なものであるし、小生自身、その例外ではないが、四月号に於て些々期待外れの感があつた。その理由として小生が考えたものは、人間の心理の動きは常に或る期待と空想によつて連続して行く、この動きに敏感にマツチしてゆくものが新聞小説であるとも云える、而して淫火々に対する期待は、小百合夫人が何時、如何にして責められるかと云うことにかゝつてゐる訳であるが、人間の期待の連続は余り長くなるとその緊張を失う場合が多い。他の人が責められるより小百合夫人が責められることに期待が集中する以上、これを徒らに遷延せしめることは技巧的に云つていゝことではない。

四月号に於ても単に小百合夫人自身の空想としての責めしかない。一月号に於ても然りであつた。こゝに緊張の持続の困難がある。もう責められてもいゝ時期に入つてゐると思ふ。緊迫感の中にことを運ぶのがいゝのではなからうか。

そして責められる場合、彼女にとつて最も大切なものは羞恥ということである。簡単に責められて喜んではいけなはいかに彼女の羞恥心が身を蔽いそれが奪われ、身も世もない状態になつて責められるべきであると思ふ。そこに小百合夫人と云う女性を持つて来た意味が存在する。例えば縛られる場合を想像してみよう。ゴボウみたいに括られるのは駄目では

Mの前に作り出す為にあるのだ、彼は、とうとう此の罪の椅子の前に、髪を振り乱して坐りこんでしまった。そう……まだ此の椅子の構造を説明しなければならぬ……

先ず此の椅子の基本を云うならば、理髪店の椅子、あれを想い出してくれ給えあれなら誰でも御存じのものだ。皮ばりの冷いしり当て、それからハンドルで角度を自由に調節出来る背当てと、それに取はすしの出来るマクラで出来ているあれである……

此の椅子にも、それらに相当するものがあるが……先ず、理髪店の椅子と同じ様に円い金属性の脚部があり、それはかなり太く、その上部で三段になり、ピストンの様に上下する事が可能で、その底部には、Mの要望で、特別の電気装置が施され、又小型のモーターもスイッチ一つで静かに廻れば、椅子全体がぐるぐると廻り出し、もし又、円筒の脚部は、長くなり、短くもなり、その上に支えた黒い皮ばりの直線わずか二十厘程の「しり当て」を速くも遅くも、自在に上下させ、ゆり動かす事が出来るのである。又、その小さな「しり当て」で支えた、白い豊かな肉を三六〇度、いずれの方向へも充分に傾けたり、又ばいとはり出したりする事も出来るのだ。

次に背当に相当する部分は、二つに分れて取りつけられ、そのくびれた美しい上体を前後左右へ思ひのまゝの位置に動かす事に当る訳で、次に頭部の支えも、ほぼ同じ様な役割を持つている。

以上の道具は別々の精巧なパイプ製の枝で支えられ、その末端は脚部の一番太い部分に連なっている。後は四本の曲

り曲つた、これも冷く光る精密に計算されたパイプ製の腕であり、その先端の金具は、容易に美しい四肢を固定させた上あらゆる位置に、らくらくと移動させては、簡単に止める事が出来、又モーターの動きで、一定の空間を正しく様々の形に自動的に動き廻る事も出来る。彼の最も苦心をした処である。以上のきわめて簡単な部品に統一された魔性の椅子は、いたくMを満足させる事であろう。

そして必要に応じていく多数の皮紐も用意されているが、此の四本のパイプでからみつけた白い肢体の自由を奪ってしまうには、その先端にある金具だけで

罪の椅子 第2回



飛田良二

充分なのである。あとはその小さい、もり上つた黒皮の「しり当て」の上に、ちよんとのせられた金具の美女を想像したまえ、必要とあらば、その椅子全体を、ほとんど前面の床一ぱいから、真後の床まで、その位置を、どんな角度へもやつり、ストップさせる事が可能であり、その「しり当て」でクボキとほり出せば、四肢で釣られて、ほとんど逆さまの形に、ぶらさげたり、モーターの動きで振り廻したりする事も出来ようし、全体の操作で、くの字にまげたり、弓なりにのけぞらしたり、又部分的にその背当で波うつヴァイナスの隆起を前面に押し出

したり、又二本のパイプは、その細い両手を一ぱいに開かせるだろう。又、二本のパイプは、その長い美しい足を、あらゆる恰好に曲げたり、開かせたり、そしてその奥の泉の扉を完全に開かせ、眼前にせり上げてくれる。又、ぎりぎりしめ上げたければ、皮ヒモも多数のびて来る。又、両手だけで高々と差し上げて、どんな悪戯をされても、あわれ白い波がゆるるばかり……

むろん意識を取り戻した上で、無理無態に、此の椅子に引きずり上るの面白さ、は完全に異常性欲者Mの欲情を満足させ、又、小穴から秘かにのぞく小心

な椅子職人の意識はどうなる事か？

その上、使つて見なければ、まだく解らないMの用意させた電気器具の悪どい性能は解らないのである。

もうそろそろMの自動車がやつて来る時刻だ。だに彼は、彼の作つてしまつた罪の椅子の前に、へたばり込んで動かさない……

かの「ギロチン」の二の舞、の様な運命が、きつとく何かの形で彼自身の上に襲いかつてくるにちがいない……と考へてか？ 目を閉じて苦痛にゆがんた彼の姿は動こうともしないのである……

短 信 往 来

▲特別会員申込書は有資格者全部へ発送しました。その殆どが申込まれる大盛況、目下整理中ですが中には数人の白紙の方が、目下整理中ですが中には数人の白紙の方が、目下整理中ですが中には数人の白紙の方が……

▲松井子史を圍む座談会は三月十五日、松井子史、川端康成出席の下に五人の読者の方を交えて開催、本誌からは箕田編集長と高月部員が出席、席上松井子史が川端康成を纏る一幕等があつて盛會に終了、速記録は五月号に間に合います。

▲特別会員に対する第一回の奉仕として縛り女のアルバム、未発表の凄いのばかり集めたコロタイプ印刷の十六枚と喜多珍子画帖第二集(時代物)の企画進行中です。何れも特別会員だけに限定分譲というシステムで特別会員以外には一部も出さない予定です。

▲三月号、四月号の淫火に小百合夫人の縛られる所が出ないので業をにやした気の短かい読者から早く小百合夫人を縛つてくれとの注文がしきり、さて誰が小百合夫人を縛るでしょうか。

▲罪の椅子は作者の都合で本号は大変短くなりましたが次号は濃厚な所を出して頂く予定です。悪しからず。

▲最近読者からの体験告白談が夥しくこの分では特集号三三回はたつぷりあるとの係の話です。送るといつて予告しながらまだの方は是非早くお送り下さい。近々大特集の連打を待つ予定です。▲売切れた分をやいのやいのと云われるのはどうか御勘辨下さい。ない物は此方もうどうも出来ないのですから……

ある。股間は自分の意志では合はせることが出来るのだが、それが責めに入つて来て意志に反して開かねばならぬ状態となることの方がより責めを満足せしめる筈である。これは小生の小百合夫人に対する一つの想像であるけれども、それが「淫火」に現実化されてゆくことを希望する。敢て、松井子史にお願いするものである。(大阪・M・K生)

福知山河真田様。

K通第七号の短評、大変うれしく拝見致しました。私もまた自分の文章が活字になつてゐるのを見て、たゞ焦慮感を感じるだけなのです、未熟と云つてしまえばそれなのですが、この原因は二つあるのです。漠然とした見方ですが許して戴きます。現象的に「女」本質的に「存在そのもの」です。

人間の存在そのものに少しでも自覚めたとき、私はいたゞまれない寂寥におそわれました。私にあるのはたゞ「孤獨」だけなのだ、この気持が私を苦しめるのです、そしてつかれました。

私は欲しました。私を柔らかに、やさしく抱擁してくれる人がほしい。私は休みたいのです、それが異常にまで進んだとき病的な私の神経組織を侵蝕したのがマゾヒズムというよりむしろ、パギズム、スカトロイはそのひとつの現れとなつたのです。幻想の世界は容易かもしませんが、現実にはみにくいものです、いつか私は精神病の自問自答をくり返す様になつていました。

幻想から離れたのです。

私の求めているのはノーマルな世界ではないことは確かです。精神と肉体の一致した母性愛、これ以上に表現しようが



【本誌十二月号読者通信
FT生よりの送稿】
宝塚二三夫

とり実行のしからしむる絶品である。諸氏よ如何?

余談はさて

第一章

ボクは先ず八時過ぎ小間使の知らせで起きるわけであるが夜中まで弄りさいなんでいたその女を朝見ると何故か一向に責め立てる気になれん。

女の方でも近頃は別にそれに対して特別な感情を表わさない。然しそもくのなられぬは、ある夏の朝であつた。洗面の後、ボクが藤椅子にかけているひざの上へ抱き上げた時から初めて接吻をしたものだ。その時の彼女のせりふが「そんな事くらい知つてゐるワ」と捨てりふの如く口走つたのを瞬間チヤンスを捕えて一先ず着衣のまゝガウンの腰ひもを抜いて腰纏を縛り上げて「誰とだ、云々!」と迫つたのだ。これがそもく責め始めであり

「ウソヨク」

と云い逃れを続けるのを幸いとだんだんと本調子で縛り出し、接吻一つするにしても両手首を掴んでねじ上げつゝも抱き締める方法であり、「ねじ上げて、締めれば締めるほど美味いんだよ……」と、仕込んで行つたのである。

それが近頃には女は本気でそうだと感じてゐるらしい。ボクが片手を掴んだだけで片手を自分からうしろへ廻して来るのである。何か当然の義務のように……。斯くしてボクの方でもホントウの気マダレ程度に責め立てる昨今、常時ボクの生活を共にしている女にはこの位が最適である。

後章で夜の場合を述べてみよう、又一

ありませんが、現在の私にはこれが必要なのです。極度に生理的慾望が激しくなれば、学生の気軽さにあそびに行きます。金で解決のつくことです。しかし商売女はあくまでビジネスです、かえつてさびしくなります。我ながら始末におえないで困つています。奇巧に粗末な文をのせていたゞくのもひとつの昇華作用です。いつかどうにかなるでしょう。

しかし、あくまで根本的なものは、存在そのものにある。これに焦慮しているから私の書くものは異様な焦慮がつきまとうのは仕方ないのです。痛い所をつかれてギクリと致しました。本当に有難うございます。

最後に一筆おことわりしておきます。「白い便器の幻想」の「あの人」はいままで説明した「現象的な女」を指すのであつて、決して特定の女の方をさすのではありません。そんな方がいれば、もう少し楽しく書いていられるのです。(東京芳野眉美)

○ 信太啓子様

奇巧四月号の「開花の契機」興味深く拝見させて頂きました。貴女の仰言る処に依れば、マゾヒズムの性癖を持つて居りますが、不思議な事は、美しい女性の白くきつとふくらんだ腹部——殊に下腹部見せられると何時もは女性に苛められてみたいと思つてゐる欲望がスーッと消えて逆にサチズムの性癖に変わつてしまふのです。かつて小生は学校卒業後或る官庁の病院に事務員として勤めましたが、担当させられた産婦人科の事務をとつてゐるうち、幼時より持つマゾヒズムに一層拍車をけられてフェミニストになり

追加人物

- A 岩井 良子 二十才 GIG
B 森田 絹 二十才 GIG
C 小加居京子 二十三才 未亡人
D 戸山 弓子 十九才 セミ・ズベ公
E 大和泉サト 十六才 ズベ公
F 菅 きみ子 二十五才 インテリ・ズベ公
G 大野 千代 十八才 クラブガイド
H 白井 千代 二十才 事務員
I 石元 昭子 十九才 同右
J 泉谷トシ子 二十一才 同右
K 下条 千津 十八才 生娘
L 道 英子 二十一才 ハウス・メード
M 田中 文子 二十才 TSKアナウンサー
N 川上 秋子 二十才 土建屋の娘
O 鎌倉 花子 十八才 洋裁生徒
P 上穴 美枝 二十一才 同右
Q 龍外 ふみ 三十才 人妻
R 長尾 照代 十九才 女学生
S 吉年 笑子 二十二才 事務員
T 佐竹 満江 二十五才 パーマネント助手
U 久呉よし子 二十三才 他人の二号氏

V 別居 幾子 二十才 キヤバレー女給

W 出淵 当子 二十一才 パー女給

これはイロハ順にある女の如く、常々縛つてゐる女でないで割愛して発表しなかつたのであるが、考へてみるとやはり皆それらの個性で楽しみ乍ら唯一回限りの責であつても印象に残つていたり又は一回位で氣不味わかれたもの等、それはそれなりで別なエピソードがあるののでいづれ短文でも述べて完璧な考現資料とするためである。

愈々楽章に入る前に、少し概説を述べ

る。ボクの性的女責のテクニク・アクションは秘書松本によつて最高度と思う。

尤も要保護癡狂人に至らざる合法で……それが腰子によつて妙味の絶頂に達したと思う。

ボクの見解では、これ以上は架空の痴人夢である。一人々々の心理感の纏のかゝつた手指を見ただで十分観察快感を得られるものである。

例えば後手に縛り合わせた両手を見るにつけ、その表情の千差万別にボクは常にフレッシュ感を求めて遂に腰子に達したのである。即ち、秋子はボクが手首を

掴んでねじ廻すと「イヤツ」形式的な言葉だけで別に抵抗らしいこともせずするまゝに背中を組合わす細目をすらしてもジツと手首を動かさぬ、さて縛つて終つても毎日の事か手の平を開けたまゝ十指も延ばし、いわゆる〇観念型〇女学生春子は十指を軽く握つて細かくふるわしての〇恐怖型〇令嬢浜江は十指をしきりに開閉させて「ハア」「ハア」と〇疼痛型〇此の他、哀憐型、立腹型、抵抗型、騒乱型、虚勢型、殉情型、苦悶型、喜悅型、順応型等々の平凡型からさては秘書松本の如く徹底的な高手小手、首纏にまでされ乍ら、尚十指でボクの肉体を………ものを握り不自由な指先でも愛撫しようと思ふ完全肉慾型から、腰子の如く一言も発せず、唯々反抗型で十指を力一杯握りしめて自身で手首をねじまげて細目をねじらしてボクをにらみつける女に至るまで。

これも結末に描くのが順当だろうが、それが着衣であろうが剥下子であろうといかなる女でも細目を解いてやつた瞬間の姿態の艶麗は全く何にたとへようもないものである。これは演技としては断じて不能で、ひ

興の女ではある。この女、見かけはスタイル満点であるが全裸に剥いてしまうと腰の線のキマラぬノッペリヤセ型でどんな縄の掛方をしても十分楽しめず唯玩弄するのには手頃である云う点と縄尻をしごと「ギヤア」と甘える如く、うめく如く、不明心理な姿態で泣く所が一特長である。ともかくこの女まで来ると縛られる事が別に考える程の事でないわけ、縛られる限りボクが楽しんでいければそれで自身も満足であるうーとしか考えられない。

この女も例に洩れずキスしてやる時だけはどんなポーズでも満足している。他の女達の責めまわすで責め始めても「イヤーン、イヤーン」の例の通り甘え声で表情は笑顔で責められていて自分の親しんでいる相手の場合は

「ワテマデコンナニセンカテ、みつちやんをしたらええやないのオ」

とぼやく。相手が心安くない女の場合「ワテ、アンナカツコ、イヤヤデ」と拒否はせぬが相手の女に冷たい言葉を投げかける。いずれにしても最後の時は全く平凡な女。要するにこの女、金力と権力によってボクの責に利用されている女。

ボクが社の事務室へ車をつけるのが早くて九時半、普通十時、勿論、誰かが迎えに出てくる。笑子は女でも車を片付けろのはなれたものである。その時は若い男の社員連中は当然得意廻りに出ているので残っているのは、和子、笑子の他四五名の女事務員だけである。

これから、ボクのプライトベート事務室での女の責は始まるのであるが、ボクの両袖大机の直横にある四寸の角柱をボクは観念柱と呼んでいる。何故なら取るものもとありえず一先ず誰かをそこへ立縛りして置いてソファの廻転椅子へ深々と掛けながら、次の責を考えている間に、その女も徐々に観念してゆくからである。

こうした名付け柱が他に三本ある。自宅の縁側の外廻りの角柱は「晒し柱」ベツトルームのベツトの上隅にある柱を「文彌柱」(よがり声の柱) 脇床のちがいの柱を「泣き柱」等々。

事務室の帽子オーバー掛けが必要以上太く頑丈なのを誰か知らん哉と一人微笑むものである。午前中のひととき以外、やはり午後の一時半頃までは何としてもビジネス・オンリーでしかあり得ないボクである。午後三時過ぎともなれば、愈々ボクの歓楽タイムは始まるので、先ずボクの事務室から車で三分程でボクの問題のF食堂へ飛んで行くのである。そこに第二楽章の主題人物とも云うべき島田君江と他三人の給仕がボクを待つている。

ボクの投資会社の一つである一般サロンからドア付別室サロンの二つ離れたザープ室を常に利用している。この食堂に居るのが、島田君江を主として盛岡照子、伊藤正子、古谷鈴、沢野末子の五人である。この食堂へはボクの縄を受ける女の大抵は連れて来て、序々にマゾへと任立てられて行くのである。その場合君江の役目は十分ボクのために盡してくる。

「今日はチョットおそかつたですネ」とお白粉気のない黒目勝のボクの縄を受ける最年少の末子が紺に白襟のユニホームに左手にナフキンクロスをかけてボクの前に出てくる。

ボクは無言で末子の片手を掴むと服の袖口をグツとたくり上げ手首をねじ上げ

「マア、御註文もない先に……」と小さい声で早口で云うとクルリとねじられるまゝにボクを背にする。ボクはスク膝の上に腰掛けさし、一方の手もねじて後手に両手首を組合わして片手一杯に掴んでしまふ、その間、嵐の前のような静けさである。

末子は自然とケンと前かみみ二つ折りになつて頭を下にする。これから片手で乳房を……と思つてみると、ドアが開いて照子がおしほりを運んで来る。

この様子を見ても別に慣れたものでフロアーに投出された末子のナフキンクロスを手拾つて職務的にテーブルの上に置く

「ドーン」と云つたついでのように

「もうやられてるのネエ、フ……」

と鼻声で笑うとツンとすましてドアの外へ走るように消えて行く。片手で後手につかんだまゝ上体を起こし、口紅の香もない生の肉を味あうように唇を押し付ける。口と舌の力一杯に若々しいホルモンでも飲込むように舌を口中一杯に吸込む「ムムツ……」とうめく声とからだを軟直さす末子、今度はその舌をボクの舌で押返さす前歯で末子の前列歯にガツガツガクガクと脳の芯までひくように噛み合はせてやる。

「ウ、ッ……」と子供ながらも絶えられぬようにボクの膝からすり落ちるようにフロアに坐つてしまふ。それでもボクの片手はねじ廻した末子の両手首から難さぬ。俯伏になつて可愛い、未熟の両足を

乱れさして靴がフロアーを蹴る……。

「そこで、ヒイーと云わないの？」

と君江の声がする。コーヒーを持つて君江がそばに立つて……

それから君江相手にドライプの相談や連れて行くメンバー等決めるのである。

その頃、こゝへ来る女がボクの特取引銀行事務員、藤原美代子、交換手河井相子等である。大体皆「応はこゝでござる」はしてやる事にしてはいるが、

夕刻ともなると、愈々妾宅と云うか？多津子の館へ車を着けるわけである。これから愈々ボクの本領真隨は發揮されるので、夜の最後までボクの責に踊る肉体は一人一ヶ月一回あるなしの日常が繰りひろげられるのである。

勿論、当初は金力で引摺られるものが多いが、二ヶ月、三ヶ月とする内には金力は勿論必要であるが、それ以上、或るものを求めて喘ぎ歡喜するのが今の娘である点を最も合理的に諸君に開陳する。よろしく参考とされよ。

(以下次号)

原稿募集

○読者の告白文

体験談性歴

を募る○

「奇ク」をお読みになられる方なれば、変つた経験の一つや二つはおあり

だと存じますが、文章の

巧拙等は問いませんから御遠慮なくドシくお寄せ下さい。会員諸氏の分は優先的に掲載の上、薄謝を呈します。

きつてしまいました。処が戦争中軍隊のために特に行われた娼婦に対する検閲に小生は記録係として出たのですが百数十人の娼婦を次々と医師と共に診てい

ち、特に腹部に興味を持つてしま

た。小生はマゾヒストですから機械的

で乱暴な医師の態度にはむしろ反感を持

たのですが、時を経ると共に不思議に女

性の腹部のふくらみを見ると奇めてみ

い衝動にかられてしまいます。

こんなことを書いては失礼になります

が「開花の契機」を読んで特に貴女も同

じ東京に居られるので御目にかゝつて

たいと思つたのです。残酷に傷つけて

サデズムではなく遊戯としてのサドと

マゾは同好者であれば、それは自らの

云われぬ性癖の欲望を充たしつゝ却つて

健全な社会生活にいそしむ事が出来る

信じています。貴女の腹部に対する御

持と同じなで失礼を省みず御便りした

次第で、まだ見ぬ貴女を責め苛んでいる

図を考へたり又遂にドレイとして奉仕

している事を想像しています。

小生はM区在住、獨身、アパートの

な家に獨居しS区の或る運輸会社の経

理部員として勤務し今年二十七才です。

勝手なことを申上げた失礼御許し下

れば幸甚です。

(東京K・H生)

○

東京YU氏の提案に賛成です。サド、

マゾその他責に主題を置いた内外の秘本

を是非頒布していただくことは出来ない

ものでしょうか。

らぶ・すれいぶいよいよマゾヒスト

の本領を發揮して胸がうずく思ひです。

春美の開眼が一刻も早く主人公の願望を

充たして欲しいものです。どうかますます

濃厚に、リアルに活写して下さい、読

代理部だより



縛られた女の写真・分譲

光沢面 焼付五枚一組一集分 二百円
印刷紙 (送料共)

第六篇 (五十一集より六十集迄) 十集分
第七篇 (六十一集より七十集迄) 十集分
第八篇 (七十一集より八十集迄) 十集分

以上各集共一集分各々五枚一組です
集を重ねる毎に充実、新境地を開拓して参りました本誌獨特の縛られた女の写真集は愛好者の間に大好評を博しまして貴重なコレクションとしての役目を果たして参りましたが、更に多数読者の趣向をとり入れ撮影した分を加えて、左の通り目下分譲中の分の内容を示します。

【内容の概略】

第六篇51、逆さ吊り、絞首台、椅子縛り、ハンゴ吊り、くさり、52、猪手縛り、椅子後手棒、ハンゴ吊り、高小手、緊縛、53、腰巻、逆手吊り、くさり、ベツト、54、吊り、ソファ、鴨居、くさり、と縄、手摺と棒、55、絞首刑、ストッキング、ハンゴ吊り、腰巻、蒲団、56、ロ

ソク、吊り前、くさり、ドア、逆立、75、椅子逆立、腰巻、腰巻、ハンゴ折檻、ベツト後吊、ズロース、58ベツトストッキング二態、椅子、ローソク、59雁字搦目三態、手摺縛り、腰巻、60、梯子逆さ吊り、床柱後手、板の間、大の字ハンゴ逆吊り、第七篇、61柱しばり、十字竿、ストッキング腰巻、天秤棒、ローソク、62、長襦袢、ローソク立、柱しばり、後手、竿、63、長襦袢、後手天秤棒、前向十字竿、荒縄背面、腰巻、64、梯子段、立柱しばり、エビ責、アクロバツト、芋虫、65、立正面縛り、後手竿、拷問台、荒縄、後手、66、逆立、荒縄正面、後手棒責め、ハンゴ責め、半吊り、67、溺泣、長襦袢足踏、綴通、エビ責、柱しばり正面、68、階段、柱竿横面、同正面坐、晒し台、竿正面、69、柱しばり晒し物、荒縄荒縄、立正面縛り、下り藤70、高小手竿、立エビ責、荒縄荒縄、ストッキング、高小手棒縛り、第八篇71拷問板、逆手吊り、折檻、72、拷問

編集部便り

三月号で吾妻新氏がサディズムの精髓で少し觸れたクリスチヌの受難、其の後多くの読者から強い要望がありましたので吾妻新氏に依頼して次号より三回連載で抄訳して頂くことになりました。真に迫る描写はきつと皆様の心をゆさぶることでしよう。引続いて同じく翻訳物では沼正三氏があるマゾヒストの手帳からと題してマゾヒスト講座を担当して下さいことになりました。次号の呼物としては澤火、らぶすれいぶの連載が益々佳境に入る外、大川由紀子さんの由紀子のお仕置は可憐な乙女二人の奇妙な物語がロマチックに描かれています。

◇吊し責めの三態写真集

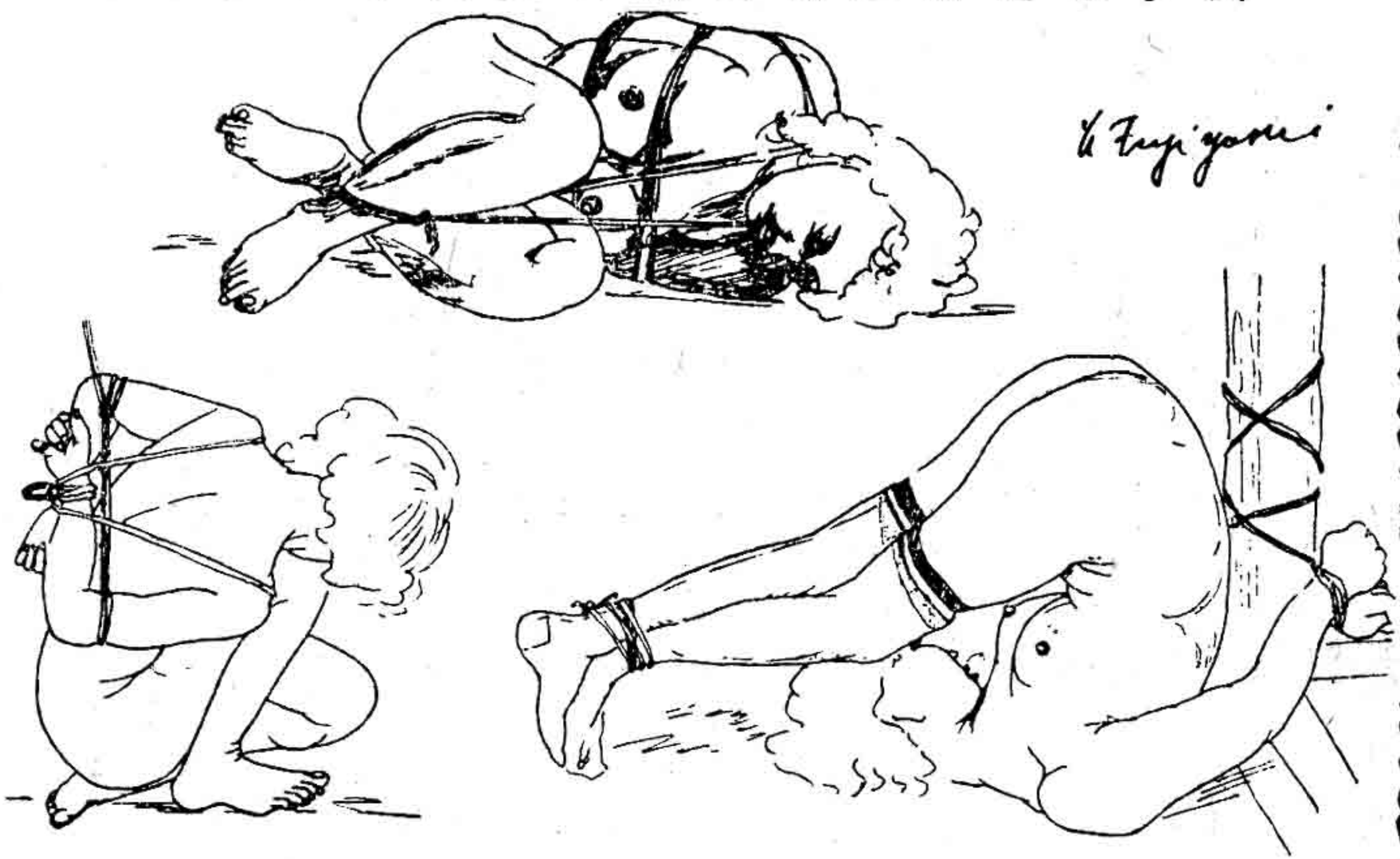
キヤビネ版 三枚一組 五百円
第一組、第二組、第三組完成、全部未発表のつて置ききの各種吊し責め姿態中、最も興味あるものを選びまし

台態、吊り以前、仕置台後手、仕置台仰向、73、和服蒲団、長襦袢、逆合掌、洋装蒲団、洋装高小手、洋装手足逆縛り、74、桶各種五態、75、高小手首縛、蚕、鞭打、処刑、仕置台、76、吊り寸前二態、法円流縛り、立膝、拷問板、77、洋装エビ責、洋装高小手、後手俯伏、寝衣一態、78、責め場五態、79、十字架二態外、80、吊り準備五態

▽鎖を纏った裸女△

た。トリックでない本当の吊しです。
◎襲われる女◎ シリーズ 十二態
十二枚一組 五百円 (送料共)
これは暴漢にされる美少女の恐怖の姿態をアタセサリに使用した緊縛感のある珍しい得難い作品です。

豊富な白磁のような女体の肌を喰い入った鎖の纏し出す微妙なコントラストと剛、冷と温、黒と白、くさりを纏った女体の美しさを追求してここに二組の写真集を完成致しました。
第一組、第二組 (各五枚一組) 二百円



者はそれを希望しています。

神の酒沼正三氏の記録を見て深い感動を覚えました。私にも似たような経験があつたのです。然しその時にも私を満足させる最後の方法は唯一つしかないことを悟りました。

ネクターはなる程熱いのが良い。それは対象となる人の生きた肉体をそこに感じ取る喜びです。そしてその為にも私は是非とも根源に接して余滴も残さず——という所までいかなければ到底法悦の極地に達することが出来ないことを嘆いているのです。

緊縛の写真四月号のものはいずれも傑作でしょう。けれども緊縛そのものが繪と主題となりつゝあるように思われるのは私の見誤りでしょうか。大体緊縛のためにポーズを作るのでは目的が逆であつて先ず姿態が必要であり、それを固定するための緊縛でなければ意味がないように思います。後手の緊縛に細目を多くすること、腰より下に腕を位置することなどは辻村氏のお説のようにさげたいものです。臀部の表現は緊縛の繪といえども無視されたくありません。兎角両腕の細目に視覚が移行して臀部の魅力が焦点から外れて行くのは惜しいことです。もつとも緊縛それ自体に興味を持つて居る方々には私の主張は顧られないでしょう。乗馬服と長靴と鞭。不思議な拷問。或る家庭教師の告白。いずれも私の幻想の世界です。そして又私はいつも藤安節子氏の作品に強く率引されます。作品を通してそのお人柄にも。 (河真田子路)

此の欄は会友諸氏の御自由を利用して戴く欄です。ハガキでも便箋でも結構です。御投稿下さい。(係より)



サディズムの演劇

新妻

今は上演されない歌舞伎の数種を除き、現在サディズムを扱った演劇の類がことごとく羊頭肉だと考へるのは小生一人だろか。空気の「肉體の門」にしても原作と異なるのはやむをえないが、館の

先ず最初にKK通信の黒井珍平氏の言を本当だと思ひました。「僕は禁欲に朝晩努力していた時の方が今よりもずっとずつと淫獣でありました」正に然り！奇くこそアブノーマルな危険な心理を昇華させてくれる唯一のもの、私は何にも知らず只ワイセツくと騒ぐお偉方こそ、角を矯めて牛を殺す愚を冒すなどとなりつけてやりたい。喜多女史の口繪、私は内心憐れられる女の相手（それは全身でなくとも）の姿を期待していたのですが矢張り駄目でしたね。如何ですか、憐れられた女の苦悶の美しさと対照する時宜を得た相手を私は切望いたします。例えば玲子画帳の中の土蔵のような調子の繪が一番好きです。

さて四月号の中でこれは思ふ作品は私の好みもありますが出来るだけ公平に次の通りマークしてみました。

★四月号の珍迷評★

一 迷評家

正面には等身大の女を裸に縛つた着色模型をおき、実際にはお町にしても、マヤにしてもみな着衣。それも鞭の音を客席のうしろで鳴らすのが滑稽なほどハッキリわかる。伊藤晴雨が力瘤を入れた百万弗劇場にしても、入口には彼氏得意の画や写真をスラリと並べ立て、「日本刑罰史」を舞台で再現すると放送したが、中にはいれはタツタ一幕。それも縛つた女を安全無比に宙に吊るのが唯一のヤマで役人の責めるのも女の苦しむのも、すべてパントマイムなのだから実感など出るものではない。もつとひどいのは安達カ

のより此の方が私に向いているのです。皮肉な傍観者として、又サジストである私として——私は敢えて言いたい、もつと苦しめ、もつと羞しめられろと。

(一) 淫火……まるでマラソン選手に声援を送っている様な私、がんばれ、がんばれ、調子を落すな、又余り発展しすぎて道に迷う勿れ。

(二) 罪の椅子……最大の期待、どうか地獄繪以上のものを、ゆつくりと喜ばせて下さい。

(三) 裸衣……体験のたまもの、読んでいて身体が丁度氏のようにしまつてゆく感じ。

(四) 地獄繪……終りましたね。どうも御苦勞さま、私の好きだったのは2号喬子の責め場、終りを急ぎましたね。

原で、やれ戸板に女を縛りつけ猿轡をはめてなど、言わせながら、そんなものは全然なし。最近池袋のアバンでやつた「サディズムの秘戯」も一回も縛らず、猿轡も用いない。ものものしい水車に女を倒さしにばかりつけるスチールは、両手を上にあげて水車に倚りかゝるだけであり、奴隷仲間が女奴隷を鞭打つのは、さわつたら折れそうな竹を空にふりますわだけ。

(六) 開花の契機……五尺三寸、十四貫このマゾヒスト並に露出狂、あゝもう五年若かりせば、私の妻に最適のタイプ(七) らぶ・すれいぶ……いつもながら達者な筆がマンネリズムをカバーしている。

(八) 風流嬢……前号の作品といふ、此の作品といふ、近ければ御教授御指導

を賜りたい位、Z談大いに結構。

(九) 春婦哀歌……会話の巧さ一寸比を見ない位、それが「妓の影」より先んじた所以。

(十) キメラ愛好会……続変態艶書

(十一) 地獄繪行脚……こういう作品を見ると田舎にいるのが嫌になつちやいます。懐しい人——

婆が娘に焼ゴテをあてるのは、足の間から煙を立て、実感を出すつもりらしいが、手足が自由なのにおとなしく仰向けになつて絶叫するのはコツケイである。こう見てくると、しよせん舞台でやるのは看板に偽りありで、地方の読者が残念がるようなものはないと思つてよろしい。むしろ読者の中の有志があつまつて素晴らしい脚本をかき、室内劇でもやる方が、ずつと可能性も興味もあると思うが、皆さんの意見を聞きたいものである。

(十二) ボクの責め方……気にいりました。但し人数のみ、実業家タイプの持つ鼻ツ柱の強さ、一度私の前で全裸にして縛つて罪の償いをさせたら……へへへ、失礼ですナ、空想空論の代表者たる私として一言反バツ。

(十三) 不思議な拷問……京都の方でした。幸福なる人、どうか次の作品をお待ちします。

(十四) 或る家庭教師の告白「あなたのムチの下に」のあの尻の下になつた男の光景を再現させて下さい。期待は今後にあり。

(十五) 後手と高小手について……矢張り生地そのもの、裸体写真はい、ですナ、劇物語を種々なポーズでとらせたらなあ。

以上の外、妓の影、赤い部屋、続錯乱の倫理、交感、神の酒を手に入れる方法等々、もう書ききれません。少くとも十月号以来、こんなに好きな作家が揃つたのは一寸珍しいと思ひました。

○会友諸賢へ○ 各都市及地方に同て公開せられてゐる「サディズムの演劇」を御鑑賞になる折がありました節は、本誌の同好者の為に詳しく御投稿して戴きたいと思ひます。

(編集部)

以上、四月号の作品を迷評しましたが、

特別会員制に対する
或る提唱

西宮 A・K 生

(一) 特別会員制の永続の爲、特に会員を選すること、(私が最も熱望すること)はこの会の永続する事です。

A、入会金 万円以上とする事。

理由は人皆その趣味に生きるのを人生最大の理想とします。それ故会の発展の爲この位の金は出すでしよう。納期は三月後とすれば熱意のある人は必ず出します。それが熱意の程度をはかるバロメーターとなるかも知れません。

(二) 三月後になつても都合出来ない様な人は熱意のない人か本質的なアブニストでその人の社会性はゼロに等しく危険です。

B、会員の二応納入した金額の一部を以つて会員個人の生活家庭状況を充分調べる事、これに依つて危険分子、スバイ、犯罪者等をオミット出来ます。

C、第一回会員以後の入会者は特に会員相互の責任に於いて人選は確実ならしめ保証人をも作る事。

(三) 会員の姓名及び職業は会社が責任を持つて極秘とすること名簿その他これに関するものは責任者を会員に明らかにする事、座談会、文書交換すべて会を中心として会員番号を用いる事。

(四) 会の発展の爲、三月月又は六カ月に一度に必要経費を納める事。

(五) KK通信以上のものが必要となる時が必ず来ると思われますが、その時は現在の如き立派なものだけでなく速かに会報を出す事。

(六) 以上提案や希望を述べましたが、

サデイスの懺悔より
続・錯乱の倫理(其二)

近東規矩也

然し、不幸にして今日に至るも、もし獨身で起居せんか、何時か罪業の身の自由ではあり得ぬ日因果の糸をたぐつたことであつたらう。二十五年の暮、現在の妻を迎え、近く二子を設ける謂わば、人の子の親たらんとする私の懺悔に読者子よ、耳朶に銘じておき、頂きたい。生れ来る子の為にも私は良きノーマルな父でありたい。私は宗教史をひもとき、文学に身を削ることに一生を捧げるべく現在研鑽に寧日ない日夜を送っている。この一篇も云うならば、若き日の悪夢として冷汗と共に拭い去りたいものではあるされば、今暫く御味読を賜らんことを。

【2】

私の盗癖は銭湯覗きと並行して行われたのである。文京区の私の寮を中心とした浴場は八つ近くもあり、いずれも歩いて十数分の位置にあつた。然もこの内、一つにはこんな逸話が残っているのである。うぐいす谷に近いこの浴場は建てばかりで客足が遠かつた。と云うのもすぐ一キロと離れた場所に古くからの湯があり、この新築のU浴場の附近はバタ屋部と墓地だつたからである。

そして偶然か否か、圓い扉が女湯に限つてフシ穴だらけなのである。仄聞する処によると、客寄せの策として、わざと穴だらけにしたのだそうで、湯上りの男客は、この穴から眼の前のガラス戸越

しに展望される女体の隅々まで眺められ桃色の雰圍気に浸れると云う訳で、これが評判となり、続々男客が流れ込んで来た。不思議に三助や番頭も、手拭い持参の湯客の覗きを目撃しても何とも云わなかつたものである。石炭運びに時々現われる風呂焚きの男も笑つて見逃していた。しかし入浴客以外の男の覗きには、遠慮なく怒鳴り散したものである。勿論今日ではコンクリートの壁に代つて覗き見する術もないが、当時、この状態は約半年にも及んだのであつた。私は半年近い覗きで、こゝに来る若い女達の裸体をすつかり観察してしまつた。

喫茶店の女、化粧品店の女店員、肉屋の若妻、パン屋の娘、八百屋の姉妹等、この附近一帯の女の肉体は全部覚えてしまひ、何処の娘は三月目にやと毛が生え揃つたとか、あの女は盲腸の跡があるとか、あの高慢な女教員は毛をたつぷり蓄えているとか、乳房の大、小等までノオトに書いて調査した。又湯上りの際の下着も半年の間に習慣が分り、ズロオスをはめて来て、帰りにには必ず腰巻に代えていく肉屋の女房、いつも一枚ズロオスを重ねている喫茶店の女、これは手癖の悪い客の侵入を防ぐ為かも知れない。八百屋の姉妹は日本橋の生命保険会社に勤めているのだが、半年の間、一度もズロオスをはめたことがなかつた。夏の頃には浴衣一枚で乳や臀の形はつきり

見えるのをむしろ誇らしげにして歩く一種の露出症の女であつたのかも知れない。冬でも着物の下は腰巻だけで、ズロオスははめないようであつた。

女達は必ず云い合わせたように番台に背を向けるつまり私達の覗いているフシ穴に真向いになる公算が大なので、明るい電燈の真下で手にとるように見えるのである。八百屋の姉妹岡島艶也に眼を付けたのは、その豊かな乳房や腰部の美しさからであつた。私はズロオスをはめぬこの娘なら犯しやすいと考えて、暫く狙つて見た。半年目の秋に華燭の典を自黒の雅叙園で挙げ、宮永町附近のアパートに新婚生活に入つた。夫君は入婿であつた。結婚後も夫婦は勤めを続けていたので時期を狙つていた私はその年の十二月の中旬、八時過ぎ頃、上野駅から尾行してとうとう杜の裏手の草原に追いつめて意に従うことを迫つたのである。妊娠していたことは後で本人から聞いたのであるが、墮すことに良人との相談が取り決めてあつたものらしく至極あつさりと言ふ事をきいてくれた。

この時にもズロオスをはめていないのを認めたのである。本人は「子供の時から習慣なのよ、だから、ふふ」と笑つていたが、元来が妹の久に比べて、奔放な性格の艶也は、近所で評判になるくらい男友達が多かつたので、或いは現在の良人以外にも男との出入りはかなりあつたものらしい。帰りしな彼女は「貴男、根津の××寮にいる近東さんでしょ、早く奥さん貰うことね。ふふ、私の、どう、具合良かったこと？」

涼しい顔で云うと、「またね」と手を振つてどんく帰つて行つてしまつた余談に亘つたが、私のこれが素人女を犯した最後であつた。さて、この浴場覗きから若い女の下着の統計を創り得たので今度は愈々洗濯物の盗みにかゝつたのである。先ず方法として、土曜日の午後を利用して、露路をたねんに歩き廻る。若くて美しい娘の居る家を探すと、その家に湯殿のある無し、銭湯への路、娘の勤務先を半日掛りで調べ上げる。その晩は家族の人員、間敷を調べ、便所の位置寢間を探り、娘の生體を覗き見るのである。その一つ――

【3】

場所は本郷の蓬萊町電停附近、門構えの二戸建、菅某、家族は銀座四丁目××会社の重役を勤めている父、母、兄が二人、一人娘、隣の靴屋で名前は榮子と云うことまで訊き出した。年は二十一才無職、趣味は読書とのこと。門を入ると正面玄関、右手勝手、左手が便所、間敷は八畳、六畳、四畳半、裏は柴垣で、忍び込むのはこゝに決めた。裏手は圓い扉の屋敷が並んでいたのを見とがめられる心配はなかつた。

洗濯物は便所傍に乾場があつて、その夜は天気が良かったせい何か何も乾してはなかつた。私はその夜の十二時過ぎまでに次のことを確めたのである。

(以下次号)

方針はあく迄趣味の会故余りドギツイ下卑な行動を適当に抑壓してゆくことこそ最良の方針と思ひます。(以上)(おこたえ)

特別会員の申込書の中に、会費をとつてKK通信を充実せよという声が余りにも多いのに驚きました。然し第七号に発表しました通り会費も通信料も一切取らないという方針を暫くの間続けたいと考へます。といふますのは現在取締りの限界もつきりせず徒らに多額の会費ばかり徴収してそれに報いる企画を実行出来ない時は読者の方々に御迷惑をかけるばかりでなく当方の信用も失墜することになりますから只今の所は満を持して俟つといつた所です。と云つて只拱手傍観しているわけではありませぬ。一カ年一八〇〇円の会費で菊判五十数頁の×××××という特別会員制の機関誌や其の他既に二、三号で姿を消した誌についても十分研究検討を続けておりますので、必ずや特別会員の皆様に喜んで頂ける名企画が生れることと思ひます。尚会員の方々の個人的な秘密に関するとは如何なる事があつても公表或は漏洩等絶対に致しません故御安心下さい。それと関連して筆者や読者の住所本名等を知らせて呉れという依頼が日に数通は必ずありますがこれは御本人の承諾なしには絶対に読者係としてはお知らせ出来ません故、そういうつたお尋ねは今後下さらないようお願いいたします。尚会員相互の交通幹線については目下別途により方法考へております故、決定次第規約といったものを発表いたします故それに従つて御申込み下されば幸甚です。――読者係――